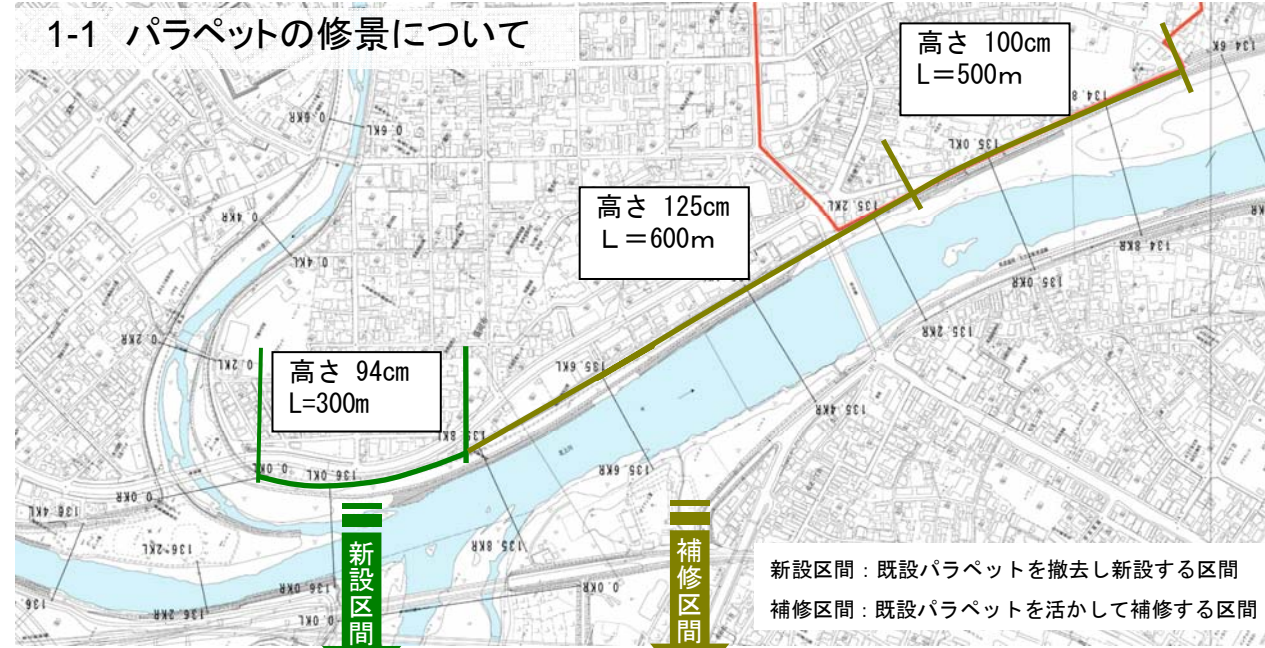
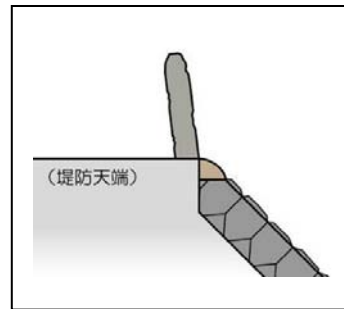


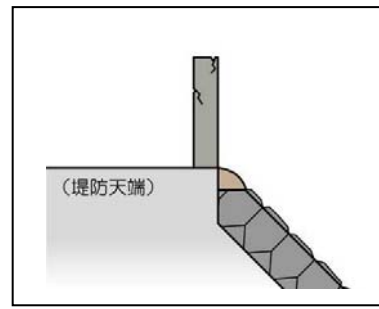
1 街並みと調和した護岸の修景等について



空洞化・劣化大



ひび割れ、欠け



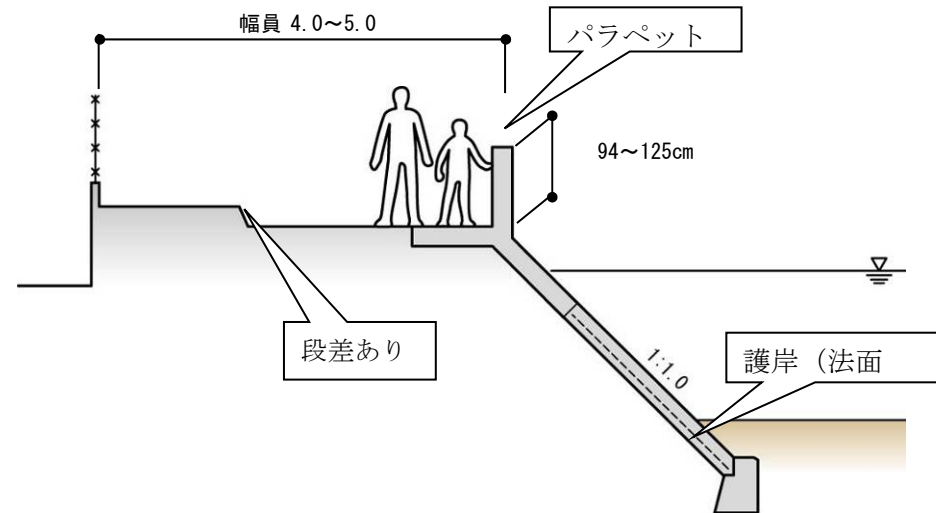
劣化



ひび割れ



欠け



【ワークショップからの意見】

- パラペットは、できるだけ低く、薄くすることで、堤防天端から北上川を望むことができるような構造を検討してください。
- パラペットをコンクリートとした場合は、表面処理や色彩に配慮して、護岸との調和に努めてください。

【第5回の懇談会での主な意見】

- 整備後、新設・補修区間において不連続・違和感のないような修景する必要がある。
- 大金をかけて、さらに、眺望を阻害するものを造るべきではない。
- 景観面からいうと自然石パネルが一番いい。

パラペットの見え方(景観特性) 新設と補修区間の違い



- * 既設と新設のパラペットが不連続な印象を与える(統一感のない景観となる)
- * 河川構造物として、護岸(1:1.0)とパラペットとの調和・一体感が求められる

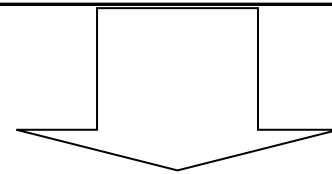


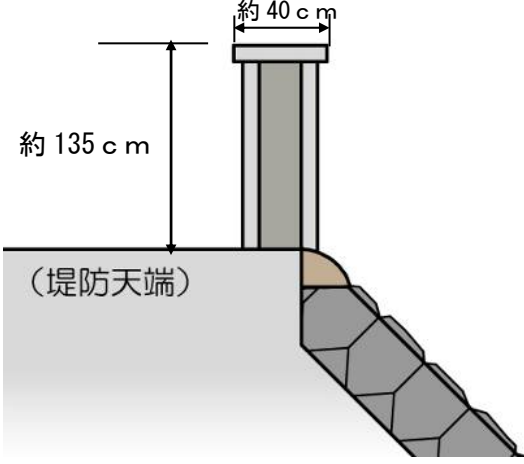
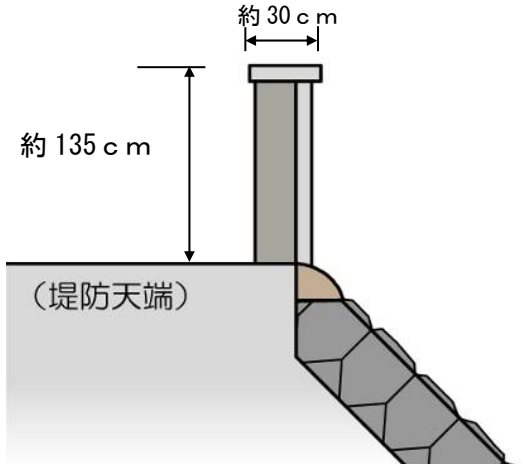
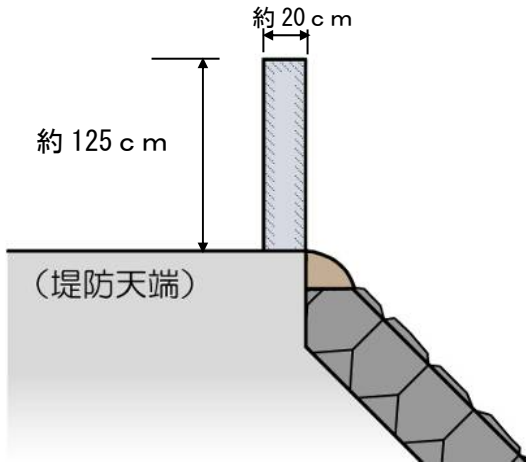
- * パラペットは歩行空間に接しており、老朽化による汚れが目立つ対象となる
- * 歩道の段差を解消(天端道路の嵩上げ)することで、結果的にパラペットの高さを抑えることが可能となり、北上川への眺望を確保することができる

パラペットの修景方法について




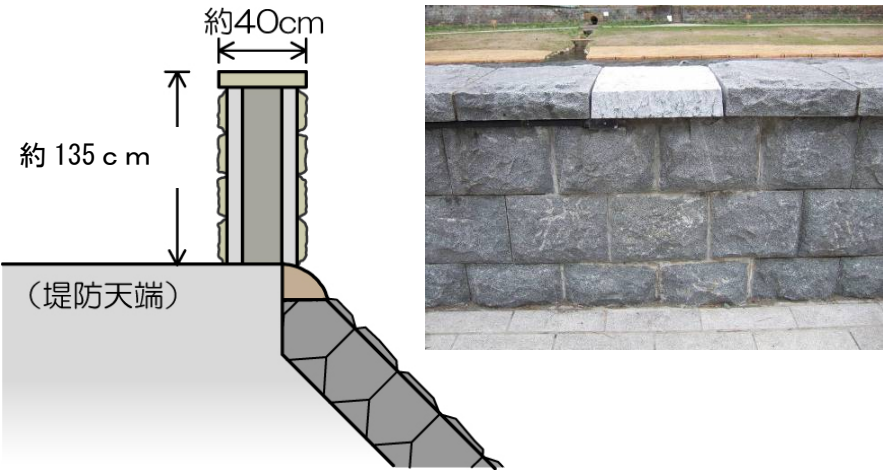
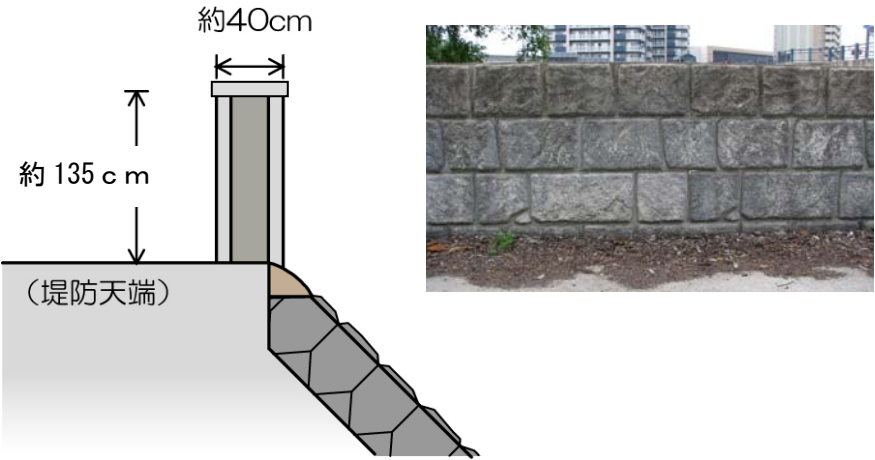
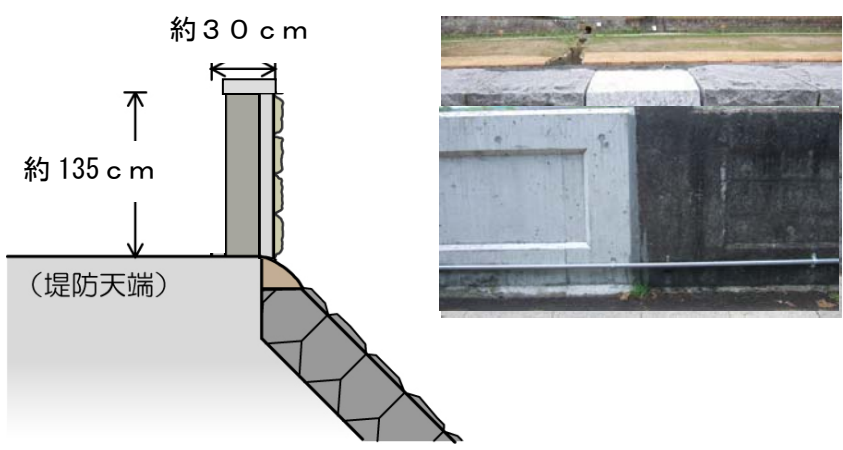
【修景の基本方針】



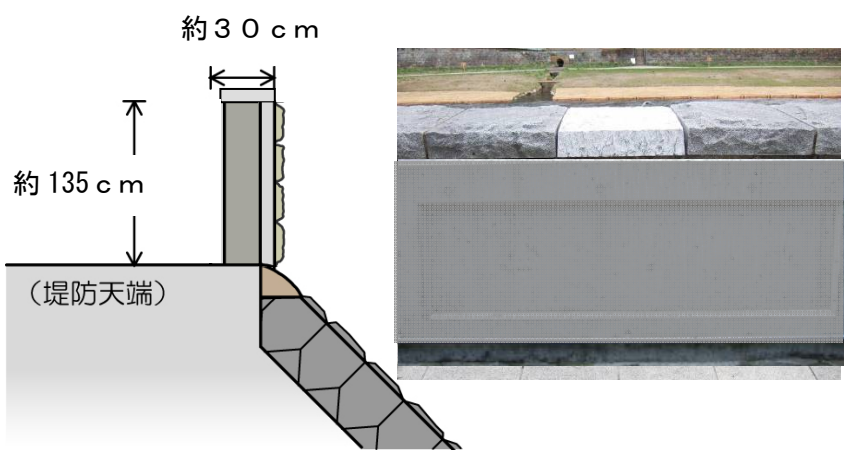
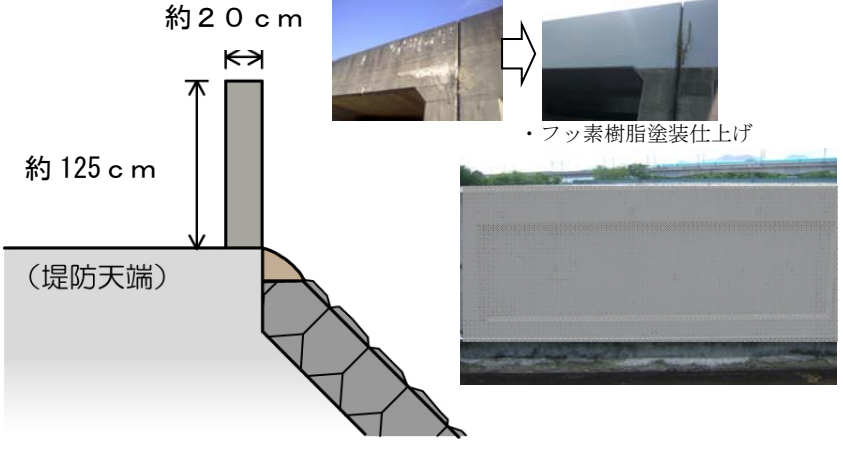
- パラペットの 신설・補修区間と調和を図る
→整備後、新設・補修区間において不連続・違和感のないような修景手法とする（修景手法の統一）
- 高さ、厚みを極力抑える
→治水上必要な高さ・厚さを確保しつつ、天端道路からの北上川の眺望を楽しむことができるよう高さ・厚みは極力抑えた構造とする（必要最小限の構造）
- 街並みとの調和、経済性を意識した修景
→街並みとの調和、経済性を意識した修景とする。



修景箇所	<p>① 両側に修景材を貼る</p> 	<p>② 片側に修景材を貼る</p> 	<p>③ 修景材を貼らない（塗装）</p> 
修景案	<p>①-1 自然石パネル ①-2 化粧型枠（自然石風）</p>	<p>②-1 自然石パネル（天端側 塗装なし） ②-2 自然石パネル（天端側 塗装あり） * 塗装は、自然石に合わせた色</p>	<p>③ 塗装（自然石に合わせた色）</p>

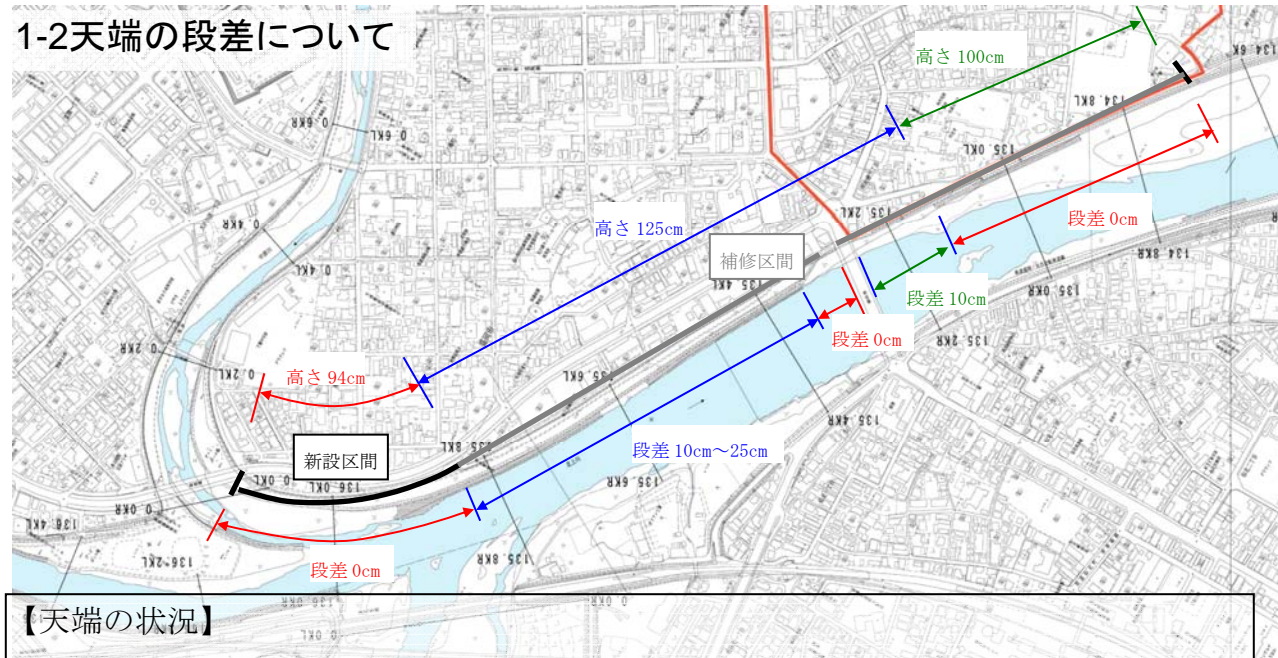
(パラペットの修景案比較)

	①-1. 自然石パネル	①-2. 化粧型枠 (自然石風)	②-1. 片側のみ自然石パネル
フォトモンタージュ	 <p>全て自然石で統一する</p>	 <p>自然石風型枠で調和に配慮。</p>	 <p>川側のみ自然石パネル、川側からの調和に配慮。</p>
断面図・整備イメージ	 <p>約40cm 約135cm (堤防天端)</p>	 <p>約40cm 約135cm (堤防天端)</p>	 <p>約30cm 約135cm (堤防天端)</p>
新設・補修区間との調和	<p>新設・補修区間で同様の手法を用いることが可能である。</p> <p>○</p>	<p>新設・補修区間で同様の手法を用いることが可能である。</p> <p>○</p>	<p>側面に貼り付けるため、新設・補修区間で同様の手法を用いることが可能である。 天端側からの見えに対して、新旧区間の不連続感を与えることが想定される</p> <p>△</p>
抑える 高さ、厚みを極力	<p>高さ+10cm、厚さ+20cmともに大きくなる。</p> <p>×</p>	<p>高さ+10cm、厚さ+20cmともに大きくなる。</p> <p>×</p>	<p>両面に比べ薄くなるが、何も貼らない案に比べ劣る。</p> <p>△</p>
性を意識した修景 街並みとの調和・経済	<p>経済性に劣るが、護岸の自然石と調和し、重厚感のある景観が形成される。 基本的に剥がれ以外はメンテナンスフリーである。 150,000円/㎡(両面)</p> <p>△</p>	<p>自然石パネルに比べ護岸との調和に劣る。 60,000円/㎡(両面)</p> <p>△</p>	<p>片側みの修景では、自然石がパネル(貼り物)であることを自ら示すこととなり、構造物本来の構造美が失われる(ニセモノのイメージ)。 75,000円/㎡(両面)</p> <p>×</p>
総合評価	<p>北上川上流・中津川の連続性、重厚感のある景観が形成されるが、高さや厚みが増すこと、他案に比べ高価となる。</p> <p>△</p>	<p>自然石パネルに比較してコストを押さえた修景であるが、高さや厚みが増すこと、護岸との調和では劣る。</p> <p>△</p>	<p>川側の修景を意識し、両側への修景よりも厚みを抑えた手法であるが、ハリボテのイメージと天端側の不連続感の解消が求められる。</p> <p>△</p>

	②-2. ②-1+片側塗装 (自然石に合わせた色)	③. 塗 装 (自然石に合わせた色)
フォトモンタージュ	 <p>川側のみ自然石パネルを張る。川側からの景観は自然石パネルと同じ。</p>	 <p>柱と天端の凹凸を活かし、塗装ののっぺり感を軽減させる</p>
断面図・整備イメージ	 <p>約30cm 約135cm (堤防天端)</p>	 <p>約20cm 約125cm (堤防天端) ・フッ素樹脂塗装仕上げ</p>
新設・補修区間との調和	<p>新設・補修区間で同様の手法を用いることが可能である。</p> <p>○</p>	<p>新設・補修区間で同様の手法を用いることが可能である。</p> <p>○</p>
抑える 高さ、厚みを極力	<p>両面に比べ薄くなるが、何も貼らない案に比べ劣る。</p> <p>△</p>	<p>パラペットそのものの高さ・厚みであり、極力抑えた案といえる。</p> <p>○</p>
性を意識した修景 街並みとの調和・経済	<p>片側のみの修景では、自然石がパネル(貼り物)であることを自ら示すこととなり、構造物本来の構造美が失われる(ニセモノのイメージ)。</p> <p>83,000 円/m²(両面)</p> <p>×</p>	<p>自然石に合わせた色、またはカラーコンクリートを用いて自然石護岸との調和を図る。</p> <p>16,000 円/m²(両面) *おおよそ、15年に1度塗装必要。</p> <p>△</p>
総合評価	<p>川側の修景を意識し、両側への修景よりも厚みを抑えた手法であるが、ハリボテのイメージの解消が求められる。</p> <p>△</p>	<p>新設・補修区間との調和、高さ、厚みの抑制においては良案であるが、おおよそ、15年に1度塗装が必要。</p> <p>○</p>

1 街並みと調和した護岸の修景等について

1-2天端の段差について



【天端の状況】

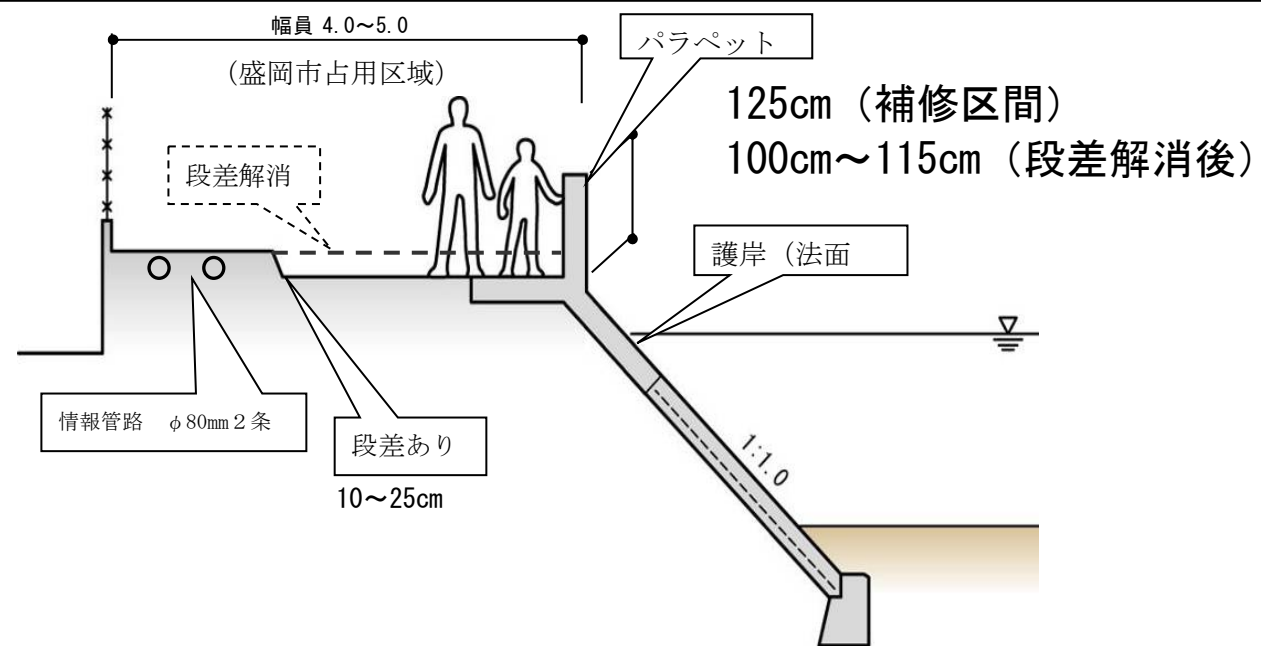
- 盛岡市が市道敷地として占有している。
- 占有工作物は、「ガードパイプ、ガードレール、街路灯18基、車止め柵8基」。
- 新設区間は段差なし。堤防天端の補修区間には10cm~25cm程度の段差があるが、段差理由及び時期については不明である。
- 自転車等走行にあたって、段差があるのは危険である。
- 排水の状況が悪くコケ類が繁茂している。水が堤防に浸透し、堤防の弱体化が懸念される。

↓

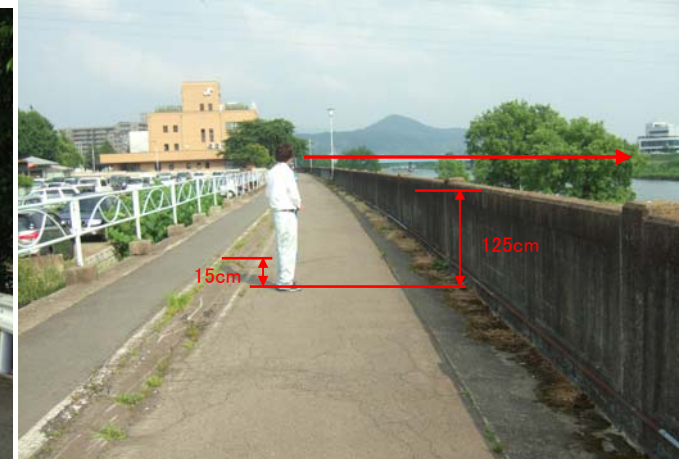
利用上の安全性確保、堤防の機能維持のため段差解消をする必要がある。

【今後の対応案】

- 堤防の機能上、天端の排水状況が悪いのは好ましくない。よって、河川管理者が段差解消のため天端舗装を実施。
- 天端嵩上げによって、街路灯の配線撤去・再設置が必要となるため、占有者である盛岡市と協議。



新設区間の天端状況
パラペット高 94cm 段差なし



補修区間の天端状況
パラペット高 125cm 段差 15cm



コケ類の繁茂状況



盛岡市の占有工作物 街路灯



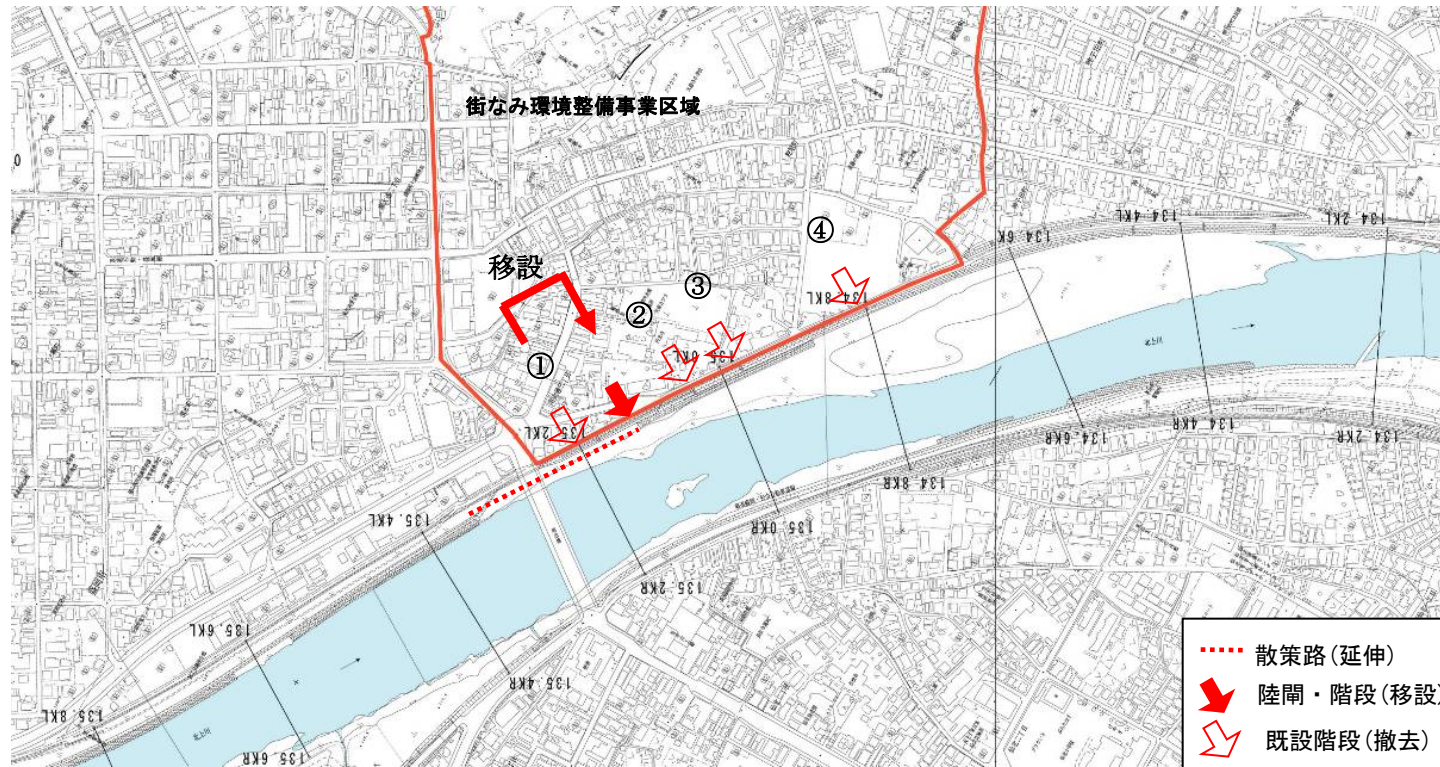
パラペット越しに河川景観を望む
(縦断的に高さが変化している H=100cm~125cm)

利用上の安全性確保のため段差の解消が必要

* 歩道の段差を解消(天端道路の嵩上げ)することで、結果的にパラペットの高さを抑えることが可能となり、北上川への眺望を確保することができる。

2 まちと川を結ぶアクセス整備

明治橋下流 階段について



- 散策路(延伸)
- ➡ 陸間・階段(移設)
- 🔴 既設階段(撤去)



* 御蔵前にはあまり空間(歩道端部)がある



御蔵付近 対岸から望む(旧奥州街道:舟橋跡)

【ワークショップからの意見】

- ・ 御蔵前付近にある急勾配の階段を改良し、安全に水辺に降りられる階段の整備を望みます。
- ・ 中津川から御蔵まで結ぶ遊歩道の整備を望みます。

【第5回懇談会での主な意見】

- ・ 整備する階段は、既設の明治橋直下流より、御蔵の前の広がっているところの方がよい。
- ・ 統廃合にあたっては、既設の階段の利用状況をきちんと把握する必要がある。

【地元ヒアリング結果】(陸間操作員、近隣者、地域の代表者にヒアリング)

- ・ 階段の設置理由は不明だが、昔は子供が水辺で遊ぶために利用していた。
- ・ 現在、4つの階段はほとんど利用していない。不法投棄を助長したり、階段が急で危険でもあるので閉めた方がよい。
- ・ 一部の利用者や鉾屋町との回遊性向上、地域活性化のためお蔵前に階段があればよい。

【整備の方向性】

- ・ 既設3箇所(②、③、④)は既設道路に隣接しており危険、ほとんど利用されていないことから閉鎖する。
- ・ 既設1箇所(①)は、一部の利用者や鉾屋町との回遊性向上を目的にあまり空間があり、安全な御蔵前に移設し、緩やかな階段の整備及び明治橋下流から御蔵まで散策路を延伸する。

明治橋上流



既設護岸の高低差は約1.5m(上流方向を望む)



既設護岸により、安全に通行ができない(明治橋(下流方向)を望む)

明治橋下流階段 ①



既設護岸(階段)の勾配は1:0.5(高低差約4m)



既設護岸(階段)堤防天端から御蔵方向(下流)



既設階段は基本的に管理用の階段であり、一般利用者が安全に昇降できない

明治橋下流階段 3箇所(②、③、④)



既設道路に隣接しており、容易にアクセスできない(交通量が多く危険)状況にある



既設階段を降りると発達した河畔林の中州

〈現況〉明治橋上流



〈整備イメージ〉



■ 既設散策路を延伸させ、急勾配の箇所を盛土して、誰もが利用しやすい散策路を整備する

〈現況〉明治橋下流階段



〈整備イメージ〉



■ 安全にかわとまちにアクセスできる階段(1:2)を整備する